

つばさ

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

JCHO 体制2年目の新春を迎え次年度に向けての新しい挑戦をする前に、この約2年間の取り組みの反省も込めて公的病院の使命とは何かを改めて考えてみました。病院は医師だけで成り立っているわけではありませんが、医師法第1条に「医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする」とあります。健康生活の確保は医師たる職業者全員の義務でもあるのです。ですからJCHO病院の一員である我々はいかにお金をかけないで全ての住民の方々の健康をお守りできるかを考えなければならないこととなります。これまで当院が置かれている立場は、神戸市北区にあって総合病院として、救急も含めた急性期医療を地元の住民の皆さんのため率先してやり抜くことでした。しかし、高齢の方が増え、しかも独居や老老介護の世帯の増加もあり、病院内での急性期のみを対象に治療をしても、退院後の生活に目を向けなければ病気を治したとは言えない現実が増えていきます。

そこでこれまで「できるだけ住み慣れた地域で自分らしい生活が人生の最後まで送れるように、医療介護の連携などを包括的に構築する」地域包括ケア構想に積極的に参入して行く方針をJCHO本部からも指示されていましたが、これからはこの方面についてもより具体的な活動をして参る方針です。当然、地域の医療機関の皆様と協力し合って進めていくことには変わりはありませんが、独自の取り組みも導入して、今後は準備が整ったものから順次ご紹介させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様方にとり、幸多い一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



院長 大友敏行

年男 ご紹介



山本 和人
：循環器内科

あけましておめでとうございます。生まれてから医師になるまでの時間と医師となってから今日までの時間が、ほぼ同じとなりました。初心を忘れることなく日常臨床に励んでいきたいと思っております。



久保田 浩史
：放射線科

新年明けましておめでとうございます。画像診断など裏方的な業務が主体ですが、“縁の下の力持ち”になれるよう、日々精進していきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

新任医師紹介



やまだ のりこ
山田 紀子：総合内科

すじの通った心優しい医療を行えるよう日々精進して行きます。よろしくお願いいたします。



かやま ともお
佳山 智生：循環器内科

地域の皆さまに少しでも貢献できるよう努力して行きます。循環器疾患でお困りのことがあれば、お気軽にご相談ください。

退任医師のお知らせ

総合内科：轟 純平

眼科：坂本有理恵

近隣医療機関のご紹介

高橋内科クリニック

〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町1丁目5-1
 TEL&FAX 078-595-0351
 診療科目：内科・循環器内科



高橋芳洋 先生

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	×	×
17:00~19:00	●	×	×	×	●	×	×	×

受付時間
 午前 / 9:00~11:30
 午後 / 16:30~19:00まで



鈴蘭台駅前交差点角に平成5年7月より開業して今日に至っています。大学病院勤務から個人診療所での診療は、いわば、チームプレイから個人プレイへ変わり、ちょっぴり不安で寂しい気持ちと同時に、しかし、自分の考えるような診療が出来るとの希望を感じるものでした。

鈴蘭台の環境や医療の状況は、幸いなことに、個人診療でありながら、診診連携、病診連携が円滑に出来るものでした。同じ医師会の先生方、地域の個人病院、現在のJCHO神戸中央病院、更には神戸大学病院などと、患者さんの診断や治療にとって、必要であれば相談・依

頼・連携が多様に円滑に出来ました。患者さんにとっては何でも相談に乗れる内科医であることを心がけてきました。

現在の医学・医療の広がり深まりは、個人診療ではまかないきれず、チーム医療が不可欠な場合が増えていきます。地域の医療に係わる専門の担当の方がたと、地域の医療に係わる病院・設備・施設などと、円滑に連携して、これからも、患者さんにとって、話を良く聞き、相談に乗れて、安心な医療を行えるようにと心がけています。



第6回 JCHO神戸中央病院 市民医療セミナー開催の様子

講演①

柴田 敏章 医長



先日は市民医療セミナーにお越しいただきありがとうございます。耳の手術というテーマはあまりなじみのない方が多かったと思います。講演でもお話ししましたが、鼓膜に穴のある方が無理に補聴器をすることは弊害もあり、穴を閉じてからの補聴器装着が大事です。補聴器を考えている際には、まずは耳鼻科でご相談ください。



講演②

竹中 まり 先生



今回は私にとって初めての市民セミナーであり、無事に終了してほっとしています。250人を超えるたくさんの方々に足を運んでいただいたにもかかわらず、当日風邪を引いて声を通りにくく、大変申し訳ありませんでした。

できるだけわかりやすく画像を入れながら説明したつもりですが、立体のものを平面で説明することになるため、理解していただくのはなかなか難しかったかと思います。手術動画なども加えればもう少しわかりやすかったかな、と反省する部分もありました。もしまた機会があれば改良してお話しできればと思います。少しでも地域の皆さんのお役に立てるよう、今後も日々の診療を頑張っております。

たくさんのご参加、ありがとうございました。

講演③

四ノ宮 隆 部長



当日は大変多くの方々にご来場いただきありがとうございます。今回の講演では、睡眠は時間よりも質が大事であり、睡眠時無呼吸症候群は、気道の閉塞により何度も目覚めることから、睡眠の質が悪くなる病気であることなどをお話ししました。

講演後にはご身内に睡眠時無呼吸の症状がおりの方からご相談をいただいたり、また講演をお聞きになった方が当科を受診されるなど、この講演で多少なりとも睡眠時無呼吸症候群について関心を持っていただけたのではと手応えを感じています。

今後ますます地域の皆様にお役に立てますよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

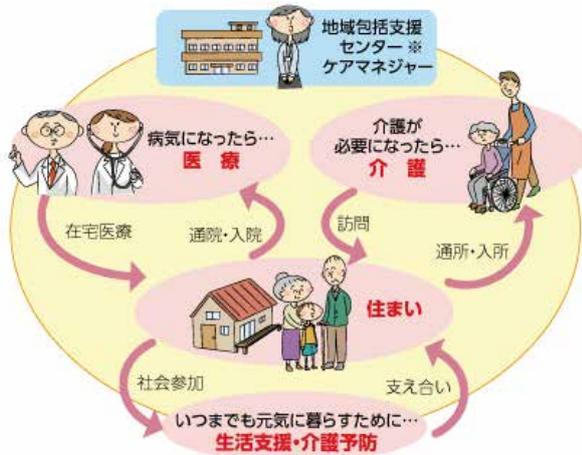


「地域包括ケアシステム」

②介護保険と地域包括支援センター

65歳以上の方、または40歳以上65歳未満で国が定めた特定の疾病により、日常生活において介護やお世話が必要になっている方が、要介護認定・要支援認定を受けることで、介護保険サービスを受けることができるようになります。介護保険サービスには、ヘルパーや訪問看護などの訪問系サービス、デイサービス・デイケアなどの通所系サービス、短期入所、生活用具のレンタルや購入・住宅改修などの住環境を整えるサービス、施設入所系サービスなどがあります。

これらのサービスを受ける必要を感じられたら、まず、要介護認定・要支援認定を申請し、認定を受ける必要があります。申請の窓口は、最寄りの地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）や居宅介護支援事業所（えがの窓口）です。



地域包括支援センターは、概ね1中学校区に1か所開設されており、住所地を管轄するセンターが決まっています。地域包括支援センターでは、介護認定の申請手続きだけではなく、高齢者介護に関する総合的な相談にも応じてもらえ、地域ぐるみでの介護支援・介護予防・自立支援の体制をつくるための提案や権利擁護に関する相談などにも応じてもらえます。

高齢者介護は、何度も経験するものではありません。「どうしたら良いだろう?」と家族だけで悩まず、地域包括支援センターに相談してみることをお勧めします。

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)

神戸中央病院 第7回 市民医療セミナー

あなたのおしっこ大丈夫?

—腎臓・膀胱・前立腺の病気—

入場無料(申し込み不要)

日時：平成28年2月13日(土) 開場12:00・開演13:00

頸動脈エコーについて

- 今回より抽選となります。(先着順ではありませんのでご注意ください。)
- 検査希望の方は、受付時にお申し出いただき、「抽選券」をお受け取りください。

会場：すずらんホール(神戸市北区鈴蘭台西町1丁目26-1)

プログラム：講演会2階「大ホール」

- 13:00 開会のあいさつ 病院長 大友敏行
- 13:15 「腎臓の話」内科医師 太田矩義/内科部長 足立陽子
- 13:50 「腎臓を守る日常生活」副看護師長 永瀬紗奈衣
- 14:10 休憩(15分間)
- 14:25 「頻尿の原因と対策」泌尿器科部長 源吉顕治
- 15:00 閉会のあいさつ 地域医療推進部長 松本圭吾

◆測定コーナー【1階多目的ホール】

15:30~16:30

頸動脈エコー(今回より抽選となります。先着順ではありませんのでご注意ください。)
ポスター展示

◆相談コーナー【2階】

15:30~16:30

看護・介護相談、リハビリ相談、お薬相談、栄養相談



皆様のご来場、心よりお待ちしております。

メデイカル ライン

《医療機関向け》

小児科部長 上田 育代

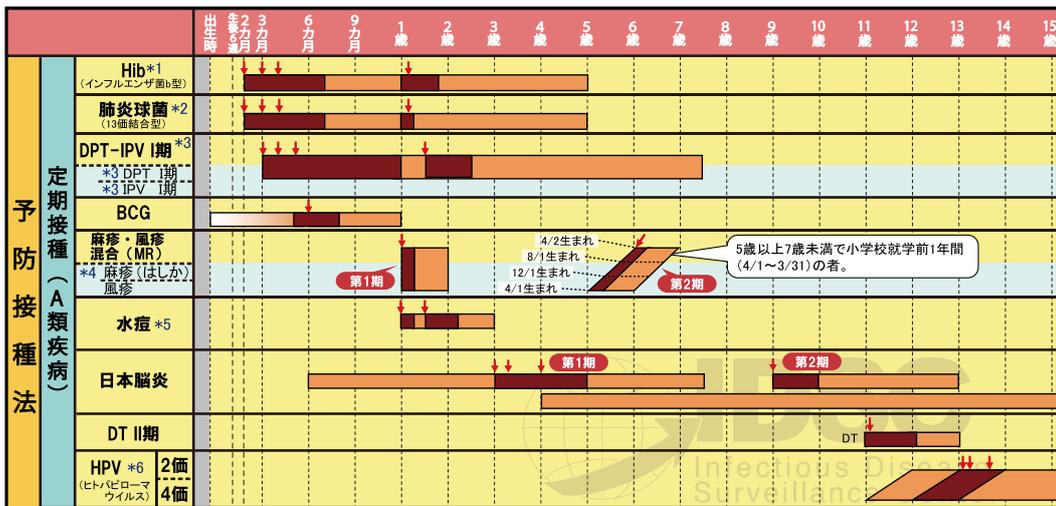


予防接種で子供を守ろう

我が国の予防接種を巡る動きは大きく、2013年にはインフルエンザ菌 b 型 (Hib)、肺炎球菌、ヒトパピローマウイルスワクチン、2014年には水痘ワクチンが小児では定期接種となりました。Hib ワクチン、肺炎球菌ワクチンの導入と定期接種化により小児の細菌性髄膜炎をはじめとする侵襲性感染症は全国的に減少しています。その一方で非ワクチン型による侵襲性感染症が報告されるようになってきました。また B 型肝炎ワクチンの定期接種が早ければ 2016 年から導入されます。さらに世界ではロタウイルスワクチンの有効性や安全性が評価され、国内でも定期接種化にむけ検討が重ねられています。当院でも 2012 年よりロタウイルスワクチン任意接種を開始し、ワクチン接種率増加に伴い昨年よりロタウイルス胃腸炎による外来患者受診者数が激減しています。接種者自身の予防だけでなく、間接的な予防効果もあると推測されます。

接種するワクチンの種類・回数が急速に増えてきたことから、接種スケジュールは大変複雑になり、現場において戸惑いや不安も増えています。当院小児科では平日午後に予防接種予約外来を行っており、効率的に予防接種が受けられるようスケジュールを組み、子供たちを感染症から守る予防医療推進に努めています。

<日本の定期予防接種スケジュール (平成 27 年 5 月 18 日以降)>



「北区医師会・JCHO神戸中央病院 医療連携セミナー」のご案内

第 2 回 「呼吸器疾患と緩和ケア」: 担当 呼吸器内科と緩和ケア病棟

日時: 平成 28 年 2 月 4 日 (木) 19 時 00 分~20 時 15 分 場所: 当院 2 階会議室

特別講師による講演予定 (平成28年1~3月) 場所: 当院 2 階会議室 (医療従事者対象)

日時	講演内容	講師
平成28年 3月3日(木) 19時~	脳神経外科の近未来 ~脳腫瘍、機能外科、脳血管障害の治療の進歩~	京都府立医科大学 脳神経外科学教授 橋本 直哉 先生
平成28年 3月9日(水) 18時~	患者安全の心で読み解く 「医療事故調査」	近畿大学医学部付属病院 安全管理部教授 辰巳 陽一 先生